

## 式辞

天候不順が続いた今年の夏も終わり、一年で一番過ぎしやすい、すばらしい季節となりました。そのような佳き日に、阪神昆陽高等学校育友会長、佐藤真佐美様をはじめ、ご来賓、並びに、保護者の皆様のご臨席のもと、平成二十六年後期入学式を挙行できますことを、衷心より厚くお礼申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございませう。皆さんは阪神昆陽の宝です。これから皆さんと一緒に、本校の歴史を創っていきけることを、とても楽しみにしています。また、保護者の皆様には、本日は誠におめでとうございませう。心からお喜び申し上げます。

さて、この阪神昆陽高校は、平成二十四年四月に開校したばかりの、県内で最も新しい県立高校で、生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができ、多部制単位制高校です。

本校の大きな特色は、同じ敷地に同時開校した阪神昆陽特別支援学校の存在です。この学校は、生徒の社会的・職業的自立を支援するため、職業教育に重点を置く、高等部の特別支援学校です。

両校は、同じ敷地にあるというメリットを生かして、新しい教育に取り組んでいます。具体的には、音楽や美術、情報、体育などの授業を、両校生徒が一緒に学んだり、体育祭

や文化祭などの学校行事を、合同で実施しています。これを「交流及び共同学習」といい、きわめて先進的な取り組みとして、全国的にも注目を集めています。

このように、阪神昆陽高校は、他の高校には見られない。大きな特色を有した、すばらしい学校であり、皆さんは誇りと自信を持って、学んでほしいと思います。

さて、入学に際して、三つのことを皆さんに要望したいと思います。

一つ目は、校訓「日常実践」についてです。「日常実践」という校訓には、「挨拶する、美化や整頓に努める、約束や時間を守るなど、生き方の基本ともいえるべきマナーやルールを、日常生活の中で常に実践していくことで、人間的な成長を目指す」という意味を込めています。

現代社会は、様々な課題に満ちています。この厳しい社会を生き抜いていくためには、まず自分自身が努力して、人間としての力を高めなければなりません。ではどうすればよいか。それはひたすら実践していくことです。高校時代という貴重な時期に、自ら目標を定め、「日常実践」に取り組むことで、人間的な成長を実現してほしいと思います。

二つ目は、「絆」ということです。平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災は、ほぼ二万人に及ぶ死者、行方不明者が出るといふ大災害でした。この大震災により、私たちは深い悲しみに包まれましたが、一方で、「絆」、つまり人と人とのつながりが、如何に大切かを、気づかされたのです。

先ほどお話ししたように、本校の大きな特色は、阪神昆陽特別支援学校の生徒と、授業や学校行事、部活動などを一緒に取り組むことで、共に助け合って生きていくことを、実践的に学ぶというものです。これは、「絆」ということを、学校生活の中で育んでいくものといえましょう。どうか、両校の生徒同士が思いやりを持って接していく中で、お互いの「絆」を深めていってください。

三つ目は、「阪神昆陽高校と阪神昆陽特別支援学校はひとつ」ということです。両校一体を象徴するものとして、校章、校歌、校訓や標準服などを、同一にしています。校長も別々でなく、一人が兼ねることになりました。

両校の先生方は、高校の生徒も、特別支援学校の生徒も、分け隔てなく接してくれます。どうか皆さんも、「阪神昆陽はひとつ」という意識を持ち、学校生活を送ってほしいと思います。

最後になりましたが、ご来賓・保護者の皆様から、本校にいただきありがとうございます、ご厚情とご支援に對しまして、厚くお礼申し上げます。すとともに、今後とも変わらぬご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成二十六年十月一日

兵庫県立阪神昆陽高等学校長

尾崎文雄